

Title	目で見るWHO 第67号 表紙・目次等
Author(s)	中村, 安秀
Citation	目で見るWHO. 2018, 67, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/86599">https://hdl.handle.net/11094/86599</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 目で見るWHO

**Universal Health Coverage:  
everyone, everywhere**

**“Health for All”**



— 第67号 —

2018年12月

発行 **公益社団法人 日本WHO協会**  
WHO Association of Japan



## 日本WHO協会とは

公益社団法人日本WHO協会は、世界保健機関（WHO）憲章の精神を普及徹底し、その目的達成に協力し、我が国及び海外諸国の人々の健康増進に寄与することを目的として設立された団体です。設立より半世紀近く、関西を拠点にグローバルな視野から国内外の人々の健康を考え、行動しており、今後も積極的に目的達成のため活動していきます。

- (1) WHO 憲章精神を普及するための健康に関するセミナー等の開催及び機関誌・広報等の啓発事業
- (2) 健康に関する調査研究の受託・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業
- (3) 国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業
- (4) WHO の事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業
- (5) 国内外の健康の向上につながる人材の育成・援助等の人材開発事業

## CONTENT

ごあいさつ .....	1
<b>●フォーラム「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ってなあに？」開催報告</b>	
開会の挨拶 .....	中村安秀 ..... 2
「すべての人に健康を！～UHCの理念～」 .....	中村安秀 ..... 3
「UHC実現に向けて日本・JICAの取組み」 .....	戸田隆夫 ..... 13
質疑応答 .....	24
<b>●第8回 jaih-s との共催フォーラム開催報告</b>	
「SDGs×日本企業～技術から迫る国際保健～」 .....	jaih-s ..... 27
<b>●WHO インターンシップ報告</b>	
WHO カンボジア事務所インターン報告 .....	黒田大祐 ..... 35
WHO 本部ヘルスプロモーションプログラム .....	小林由佳 ..... 38
WHO ラオス事務所インターン報告 .....	時枝夏子 ..... 40
<b>●（寄稿）全身・全臓器が撮れる PET/CT 検査</b> .....	越智宏暢 ..... 42
◇日本の WHO 協力センター一覧表 .....	46

皆さま方には、公益社団法人日本 WHO 協会に格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2018年6月18日に開催された理事会・社員総会において選任・承認され、日本 WHO 協会理事長に就任いたしました。關淳一前理事長が8年間にわたり本協会の活動の活性化と組織の透明性の確保にご尽力され、公益社団法人としての社会的な責務を果たし着実な成果を重ねてまいりました。關前理事長が築かれた確固とした基盤をもとに、会員や賛助会員の方々とともに新たな一歩を踏み出していくことに身が引き締まる思いです。

2015年には、国連総会において「持続可能な開発目標 (SDGs)」が提唱されました。保健医療や貧困対策、教育、環境などの分野で、政府だけでなく民間企業や市民社会が協働して、2030年までに「だれひとり取り残さない」社会を創ろうという壮大な試みです。私たちも、2019年2月に大阪で開催されるワン・ワールド・フェスティバルにブースを出し、多くの市民団体とともに SDGs に対する理解が広まるよう積極的に社会に向けて発信していきます。

日本 WHO 協会は、国際連合の専門機関である世界保健機関 (WHO) の行っている活動や情報を多くの人びとに迅速かつ適切に伝えるという使命を担っています。これまでも、WHO 健康開発総合研究センター (WHO 神戸センター) をはじめ、多くの WHO 関係者の方々にはお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後は、ファクト・シートをはじめ WHO に関する日本語情報のワンストップ・サービスをめざすとともに、機関誌「目で見える WHO」をさらに魅力的なものに編集していきたいと考えています。

日本国内で、WHO やグローバルヘルスに関連する病院や大学や研究所、民間企業、NGO/NPO などの市民社会とのネットワークを強化していきます。とくに、WHO 神戸センターや日本国内で幅広い分野にわたり活躍されている WHO 協力センター (WHO Collaborating Centre) との協働のなかで、私たちが多くのことを学ばせていただきたいと考えています。

また、日本 WHO 協会では従来から、WHO インターンに支援を行う制度を通じて、若い世代の育成に注力してきました。今後は、グローバルヘルスに関する研究会を定期的で開催することや、WHO インターン経験者の会合を開催するなど、海外に羽ばたこうとしている若い世代の自主的な活動を積極的にサポートします。

これ以外にも、さまざまなプロジェクトを通じて、世界の人々の健康を守るために地球市民の一員として、WHO をはじめとする国際機関、国、地方自治体、企業、NPO/NGO などと協働しつつ、だれひとり取り残さない「持続可能な開発目標」(SDGs) の目標達成をめざして活動していきます。

今後も、皆さま方のより一層のご理解とご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

23018年12月  
公益社団法人 日本 WHO 協会  
理事長 中村安秀